

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A540	23-085	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Outcomes of first emergency admissions for alcohol-related liver disease in England over a 10-year period: retrospective observational cohort study using linked electronic databases イングランドにおける 10 年間のアルコール関連肝疾患による初回緊急入院の結果：電子データベースを使用した後ろ向きコホート研究		
執筆者		
Bodger K, Mair T, Schofield P, Silberberg B, Hood S, Fleming KM.		
掲載誌		
BMJ Open. 2023 Nov 22;13(11):e076955. doi: 10.1136/bmjopen-2023-076955.		
キーワード	PMID	
アルコール関連肝疾患、院内死亡率、後ろ向きコホート研究	37993152	
要 旨		
<p><b>目的：</b>イングランドにおけるアルコール関連肝疾患 (ARLD) による初回緊急入院の患者特性、ケアプロセス、および死亡率の時間的傾向を調査した。</p> <p><b>方法：</b>2008/2009 年から 2017/2018 年の Clinical Practice Research Data を用い、ARLD による初回入院患者を抽出し、分析対象とした。患者特性、最近の一般開業医 (GP) の診察と入院 (前年)、高度なケア、院内死亡 (認定された原因を含む) および 365 日以内の死亡に関する情報を得た。また、共変量として、年齢、性別、貧困状態、ARLD ステージ、肝臓以外の合併症、腹水および静脈瘤のコーディングを用いた。</p> <p><b>結果：</b>初回入院件数は 17,575 件 (平均年齢 53 歳、女性 33%) であり、ほぼ半数が進行性肝疾患を示唆するコードを有していた。入院前の 1 年間に、GP 診察を受けた 47% がアルコール関連の問題を有していた。一方、最近の入院記録の 24% にアルコール固有の診断コードが無かった。全体として、院内死亡率は 15%、365 日以内の死亡率は 34% であった。共変量調整後の院内死亡リスクは年間 6% 低下し、1 年以内の死亡は年間 4% 低下した。</p> <p><b>結論：</b>ARLD 初回入院の予後は改善しているが、一次医療と二次医療における早期認識と介入の機会を逃している可能性が示唆された。</p>		